

# NEW POWER

HIROSHIMA

# NEW POWER

広島県ものづくり  
グローバル人材育成協議会

# HIROSHIMA



## はじめに

広島県ものづくりグローバル人財育成協議会では、広島県、県内企業、広島大学が連携し、優秀な理工系留学生を掘り起こし、育成した上で、県内企業への就職を進める取組を行っています。県内企業の海外展開ニーズの高いアジアをはじめとする各国から、県内企業への就職意思を有する留学生を受入れ、高度な知識・技術だけでなく、ものづくり企業のノウハウを活かしたカリキュラムにより、日本企業で働くということ意識した教育を行います。

この「NEW POWER」では、県内企業の留学生を採用する目的やその効果、また、留学生の日本で働こうと考えたきっかけや仕事を通じて感じる想いをまとめております。県内企業の取組や元留学生について知っていただくことで、外国人材に対する理解が深まり、採用への関心の高まりや外国人材の活躍できる環境が整っていくことを期待しております。

## 海外人材を採用する意義・メリット

### 海外の優秀な人材の確保

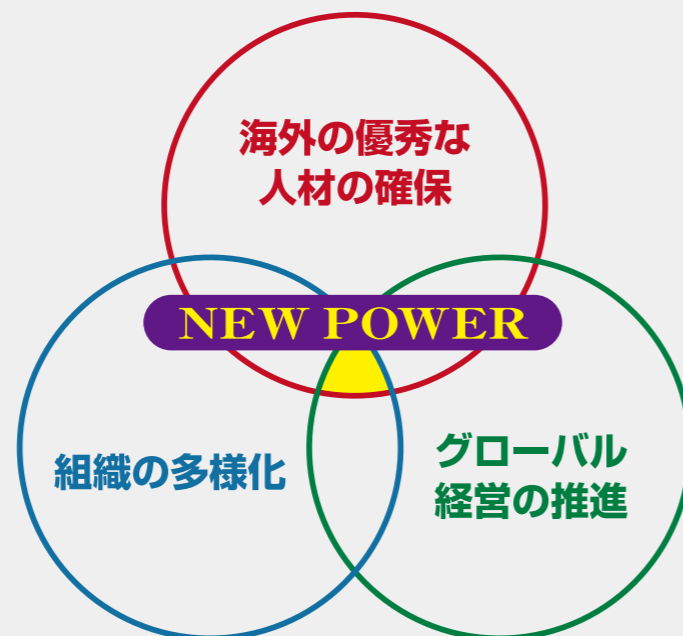
少子高齢化に伴い、労働人口は減少している中、語学力も高く、国際的な視点を持つ優秀な人材を確保することで、企業の発展や成長、ビジネスの継続等につなげることができます。

### 組織の多様化

外国人材の活動が日本人社員に新たな刺激を与え、意識改革や生産性の向上につなげることができます。また、外国人材への指導や教育に取り組むことで、社内制度の見直しや職場環境の改善などの効果も期待できます。

### グローバル経営の推進

母国語や英語に堪能、かつ現地の文化や習慣をよく知る外国人材を採用することで、事業の海外展開や新規顧客・販路開拓につなげることができます。また、日本人とは異なる新鮮な発想や視点を持つ外国人材が商品開発等に取り組むことで、新たな商品・サービスを提供できる効果も考えられます。



# CONTENTS

イームル工業株式会社  
グナナセカラン・キショルクマル(インド)

3-4

極東興和株式会社  
リー・アン・バン(ベトナム)

5-6

株式会社シギヤ精機製作所  
アナンド・バラクリシナン・ナンビア(インド)

7-8

広島化成株式会社  
ステファノ・クリストフォルス・セバステアン(インドネシア)  
プトリディア・ルピタサリ(インドネシア)

9-10

ホーコス株式会社  
ゴービンダラージュ・ゴータム(インド)

11-12

マツダ株式会社  
ベガ・ラミレス・アントニオ(メキシコ)

13-14

広島県ものづくりグローバル人財育成協議会  
NEW POWER「座談会」

15-16

広島県ものづくり  
グローバル人財育成協議会について

17-18

オープンな社風が高度外国人材を輝かせる  
 チャレンジと夢を支えるのは、人との絆。



開発グループ

グナナセカラン・キショルクマル (29才)

Gnanasekaran Kishorkumar

●インド出身 ●アンナ大学出身 ●入社5年目

●担当業務：水力発電プラントの開発・設計

## 国籍を意識することなく一人の社員として。優秀な人がいれば、迎え入れるのが信条。

中小水力発電プラントの専門メーカー、イームル工業株式会社。開発・設計・製造・据付工事から保守点検に至るまで、水力発電のオールインワン企業として70年以上の実績を誇る。再生可能エネルギーの利用が叫ばれる中、まさに注目を集める業界だが、「土地柄もあるのかもしれませんが、日本の人材マーケットのみに焦点を当てていると、弊社のような中小企業では優秀な人材を迎え入れることが難しいんです」と企画部企画総務グループ・山元啓史氏。それゆえ国籍を問わず採用することは、優秀な人材を確保するためには必須なのだという。「優秀な人がいれば採用する。それだけなんです」と、国籍を意識することなく一人の社員として迎え入れるのが信条だ。

グナナセカラン・キショルクマルさんの採用は、流体関連の研究をする学生を紹介してもらおうと広島大学に声をかけたのがきっかけ。流体力学が専門だったキショルクマルさんは、技術力を見込まれそのまま開発部へ配属となった。専門用語は、今ではキショルクマルさんが兄のように慕う山口直樹氏が日々の中で指導を行った。昼休憩には他の社員たちと共にキャッチボールを楽しむ。「外国人」を区別しないオープンな社風が、高度外国人材の働きやすさを支えている。

一方、高度外国人材だからこそ可能なことも多い。研究開発では「日本人だけのチームでは決して生まれてこない柔軟な発想力」で臆することなく意見を述べ、その姿は日本人社員へもいい刺激になっているという。また、海外業者との打ち合わせにも、専門的知識を背景に力を発揮している。「積極的に仕事に励んでくれて、技術力も、コミュニケーション能力も高い。会社に『馴染んでいる』という言葉がぴったりだと思います」。

## 偶然が重なって水力発電の世界へ。外国人扱いされないから楽しく働ける。

### ●日本はチャレンジ。自分を信じてくれた会社のために研究を。

インドの小さな村の出身だというキショルクマルさん。海外への憧れとともに「大学院に進むなら絶対外国に！」と新天地でのチャレンジの機会を探している際偶然小耳に挟んだのが、広島大学大学院のプログラムだった。フランス語ができるため当初はフランスも候補に入れていたが、「言葉が全くわからない国で修士号を取ることこそ、本当のチャレンジ」と日本を選択。奨学金制度の存在も決め手となり、広島大学大学院で流体力学の研究をすることになった。

来日後は想像以上に日本語に苦労をしたものの、アルバイトなどいろいろな体験をしながら上達。修了前に就職活動を行っていた時に、イームル工業が流体力学専門の学生を探しているという情報を聞いた。それまで水力発電関連への就職は考えていなかったものの、会社訪問の際研究開発の現場に魅力を感じ応募。「日本語が十分ではないので落ちたかもしれないと思いましたが、私のスキルを信じて採用してくれた。その時から、会社のためにまた新たなチャレンジを始めました」と振り返る。

希望の開発グループに配属されたキショルクマルさんは、研究に没頭。タービンの効率を高める水車を

設計し、実際に縮尺モデルを製作して、実験を行い検証するという作業が、何よりも楽しいという。また、2年前からは、新事業である水車発電設備のリバースエンジニアリング・プロジェクトにも参加。積極的に様々なアイデアを提案し、実験を行っている。

得意な分野で生き生きと力を発揮しているキショルクマルさんだが「これはぜひ言いたいんですが…ぼくが楽しく働けているのは、この会社の皆さんがぼくを『外国人扱い』しないからだだと思います」と身を乗り出す。「それに、日本語のサポートはもちろん、仕事でもプライベートでも、悩んだら何でも相談できる先輩がいます。道を間違えないように照らしてくれる『キャプテン』みたいな存在です」と尊敬と信頼を言葉にする。「そういう存在がいなかったら、言葉がわからない外国で働くというのは、難しいと思います」。



### ●夢は「イームル・インディア」の設立、名前が残せるような製品を造りたい!!

水力発電プラントのオールインワン企業である同社では、設計を行うとまず縮尺モデルを作り解析、検証を行い、その後工場で実物を制作。現地で据え付け工事を行い、稼働させる。「開発途中はたくさんの苦労がありますが、それを全部超えて、最終的に製品となって動いているのを自分の目で見ることは、本当にうれしくて、やりがいを感じます」と顔をほころばせる。「自分が発案した新しい設計の水車を作って、『これは、キショルクマルが作った』と何年経っても自分の名前が残るような製品を造ってみたい。

それからたくさん経験を積んで、いつかその全てを注ぎ込んでインドに『イームル・インディア』を設立したいんです」。



(左)開発グループ 山口 直樹氏  
 (中)キショルクマル氏  
 (右)企画部 企画総務グループ 山元 啓史氏

#### 企業メッセージ

地方の中小企業にとって、優秀な人材を確保することがますます困難になっていますが、高度外国人材は、そこをカバーしてくれる貴重な人「財」です。言語の壁を越え、留学してまで学んでいる方なので、意欲も能力も高い。ものづくりグローバル人材育成協議会の制度は、間違いなく優秀な人材を採用することができる、企業にとっては貴重な機会だと思います。

国際的視野と高いモチベーション、  
物怖じしない発想力と技術力、大学とのつながりが  
企業の競争力を強化する。



営業本部技術企画課

リー・アン・バン (28才)  
LE ANH VAN

●ベトナム出身 ●運輸交通大学出身 ●入社2年目  
●担当業務:高速道路など既設コンクリート構造物への補強  
工事におけるデータ解析及び詳細設計

### 専門知識と既成概念にとらわれない思考力、 新技術開発を担う期待の若手人材。

橋梁架設や鉄道の軌道スラブ、高速道路などのコンクリート構造物の補修・補強など、先進技術で日本の交通インフラを足元から支える極東興和株式会社。「国籍にこだわらず、優秀な人材を採用する」という方針のもと、アフガニスタンや中国など多国籍の社員が活躍する。リー・アン・バンさんはベトナム出身。コンクリート素材について研究した専門知識を活かし、高速道路の床版を強度の高いプレストレスト・コンクリートへと取替する際の解析や詳細設計を行うチームに所属している。

管理本部管理部のト部稜部長は「外国籍だからと特別視せず、ひとりの『若手社員』として教育し、仕事を任せています」と語る。トレーニングの一貫として行われる担当業務の進捗についての定期的なプレゼンテーションも、提出する日報や書類ももちろん日本語。日頃の業務も全て他の若手社員と同じように行っている。入社時から日常的な日本語はできるものの、専門用語や漢字などのハードルはもちろんある。しかし、業務の内容に齟齬が無いよう指示の後には必ず本人の言葉で説明を繰り返す、文書は添削を行う、といった日々の仕事を通じた学びや、チームとの密なコミュニケーション、そして何よりも本人の努力によって、そのハードルも着実に克服しつつあるのだという。また、勤務の後では、マンツーマンでの日本語レッスンも行われているようだ。

「優秀な人材を大学から直接採用しただけあって、モチベーションが高い。自分から手を挙げる積極性もあるので、他の社員へのいい刺激にもなっています」とト部部長。国際的な視野もあり「既成概念にとらわれない挑戦的な思考ができるので、すでに社内での存在感もある。独自技術の開発を担う一人として、これからの活躍が楽しみです」。

## 将来の夢は新技術の開発。信頼する技術を持つ日本で学び、 働くからとにかく仕事が面白い。

### ●チャレンジが出会いを生み、憧れの日本で専門分野の企業に就職。 日本語は仕事の中で上達中!!

運輸交通大学でコンクリートの骨材について研究していた際、広島大学大学院への奨学金について知ったというバンさん。日本に対しては、日本酒や桜といった観光的なイメージとともに、技術力の高い国、とりわけ耐久性の高い信頼できる技術を創り出すことができる国というイメージがあったのだという。自国では学べない技術を知りたいという向学心と、若いうちに国外でチャレンジしたいという向上心とともに来日し、広島大学大学院に入学。そこで研究を行っていた、日本人の先輩と知り合った。先輩が働いている会社が、高速道路や橋梁に使われる先進技術を駆使したコンクリート工法や、自身の国では整備が不十分な鉄道の新しい軌道など、まさに自身の興味のある分野を事業としていると聞いたバンさん。その話を聞いた瞬間に、同じ会社で働いてみたい!と思ったのだという。入社前のインターンシップでは、初めて日本の会社を体験。事業の内容はもちろんのこと「きちんとした規則正しい感じが、想像していた『日本』のままで、感動しました」と、そのままの強い想いで入社した。

「社内の皆さんが手伝ってくれて」日本語はみるみる上達。社内プレゼンでは、事前に繰り返し練習を行い、難関だった漢字や専門用語も、添削のおかげで着実に身につけているのだという。社内でのバックアップ体制もさることながら、バンさんの努力と向上心を支えるのは何よりも仕事そのものであり、「自分の知らなかった新しい技術の勉強ができる。とにかく専門的に、面白いんです」と目を輝かせる。現在は、コンクリートにPC鋼材を用いてプレストレスを導入することで既設構造物の補強を行う新技術「K-PLEX工法」や、高速道路の床版を高強度の工場製品に交換するプロジェクトなどに加わっている。専門ソフトウェアを駆使して、構造物の解析や詳細設計を任されるなど、自身の興味と知識を最大限に活かし第一線で活躍中だ。



### ●この会社で新しい技術を開発したい。世界の未来に向けてチャレンジ中!!

まずは現在任されている仕事をしっかりと身につけ、解析・設計の業務と建築の現場という双方向からコンクリート構造物について理解を深めたいというバンさん。将来は、同社で推奨されている留学制度を利用して「アメリカなど海外で日本に無い技術を学び、それを会社に持ち帰って、新しい技術を開発したい。そしてその技術で、途上国の交通に役立てれば」と自身と会社、そして世界の未来のために、意欲的にチャレンジを続けるつもりだ。



管理本部 管理部 総務課 ト部 稜氏      リー・アン・バン氏

#### 企業メッセージ

弊社で活躍している外国籍の社員の方は、国際的な視野と高いモチベーションを持ち、物怖じせずに新しいことに取り組んでくれる優秀な人材ばかりです。社内の活性化の意味もありますが、新たな技術の開発を担う人材として大いに期待を寄せています。

自発的に学び、独自の発想を形にしていく姿勢がある人材を大学とのつながりの中で直接採用できるというのは、企業の競争力向上につながります。社内のバックアップ体制はもちろん必要ですが、まずは採用してみたいはかがでしょうか。

徹底した『サービス』を海外でも。世界に通じるシギヤ・ブランドを担うインド人主任。



営業部 海外営業課 主任

アナンド・バラクリシナン・ナンビア (32才)

Anand Balakrishnan Nanbiar

- インド出身 ●アノナ大学出身 ●入社9年目
- 担当業務:海外営業課でアメリカ、オーストラリア、ヨーロッパを担当

## 技術力、語学力・・・ マルチに活躍する高度外国人材。

円筒研削盤・万能研削盤を中心とした金属工作機械の製造販売業を、国内のみならずアメリカやタイ、上海など、多くの海外拠点においてもグローバルに展開する、株式会社シギヤ精機製作所。福山市に構える本社でも、タイ、中国、インドと4人の外国籍の従業員が主に営業などの業務を行っている。

総務部の井上貴弘氏は高度外国人材について「技術についての理解が高く語学もできる、マルチな人材」と評価する。同社は以前から、販売に関わる部分だけでなく、高い技術力により修理にも対応するというスタンスで営業職の社員を育成している。「もちろん日本人にも優秀な方はいますが、そこにプラスして専門的な各国語を駆使し、海外のクライアントからの要望に的確に対応できる人材となると、かなりハードルが高い」と井上氏。高度外国人材を採用することで、この徹底したサービスを海外の顧客にも提供しやすくなった。

採用では、日本語能力についてある程度は考慮するものの「フレンドリーな方であれば日本語はどんどん流暢になる。最初は大変だとは思いますが、専門用語も勉強して覚えていってくれる」のはこれまで実際に目にしてきた通り。面接から採用、入社後9ヶ月にわたる各部を回っての研修、人事制度、また待遇面においても、高度外国人材の社員たちに「外国人」としての特別扱いはしていない。「日本人と同じように」というのはハードにも聞こえるが、入社9年目のアナンド・バラクリシナン・ナンビアさんは当時を振り返り「逆に特別扱いをされていたら、怠け者になっていたかもしれない」と笑顔を見せる。「ナンビアさんを含め、高度外国人材の活躍は、当社のブランド力を確立する面でも大きく貢献してくれています」と井上氏。今後さらに多くの高度外国人材の採用を視野にしている。

顧客からの「シギヤに任せておけば、大丈夫だね」の言葉が何よりも嬉しい。社員としての誇りは、憧れの『日本のものづくり』の現場で働くことができたから。

## ●インドで習った日本のものづくりは嘘ではなかった!!感動を胸に生き生きと活躍。

来日前は、インドの大学で工学加工システムを専攻していたナンビアさん。大学を卒業後、留学を考えた時に、広島県ものづくりグローバル人材育成協議会の留学プログラムの前身であるプログラムについて、偶然知ったのがきっかけだった。同級生たちが英語の通じるイギリスやアメリカを次々と選ぶ中であえて日本を選んだのは、高校時代から教わっていた「日本のものづくり」に興味があったから。インドにおいて、工学を目指す学生は、5Sやリーン生産方式など日本式のものづくりについて授業で教えられ、実習の場でその実践を指導されるのだという。「ずっと学んできた『日本のものづくり』を実際に見ることができるチャンスだ」という思いが、魅力となった。

留学後、念願叶いついに目にすることができた「日本のものづくり」の現場が、インターンシップで訪れたシギヤ精機製作所だった。現場での第一声は「嘘じゃなかった。噂だけじゃなかった!」だったとナンビアさん。「インドでは教えられてやっていることが、普通に行われている。整理整頓もカイゼンも当たり前。すごい、これが日本かと思いました」。

## ●夢はシギヤ・ブランドをもっと世界に広めること。

現在、ナンビアさんは海外営業課の主任を務めている。同社の方針通り、海外の顧客のサポートからプレゼン、新規開拓、機械の据え付けや調整と、まさに「最初から最後まで」を行う。印象的だったのは、海外拠点のサポートで訪れたインドでのクライアントとの仕事だ。機械の説明、据え付けから修理、調整を担当し、数週間という苦労を重ねたが「成功した時に、『シギヤの満足度はいつも100%!シギヤにまかせておけば大丈夫だね』とお客様から肩をたたいてもらった。苦労なんていっぺんに忘れてしまいます」と満面の笑顔で語る。

本社では「サッカー大会とかバドミントンクラブと

その感動と「大きすぎる会社ではない分、いろいろな部門で経験を積ませてもらえるに違いない」という期待を胸に、そのまま同社に入社。希望通り研修を含め様々な部署で経験を積むことになったが、もちろん、言葉の苦労はあった。しかし「時間がかかってやるしかない」と心に決め、分からない時は「すぐに聞く、調べる、やってみる」を徹底しました」という当時を経て、今では流暢に日本語を話し、読み書きもする。「フレンドリーに、皆が優しく丁寧に教えてくれた。本当にありがたかった」と振り返った。

営業部配属の前には、技術部開発課での標準機的设计・製図や、新機種設計のプロジェクト、商品開発課でのモジュール化による機種統合プロジェクトなどで活躍したナンビアさん。「特に、ゼロからフリーハンドで新しい機種を設計していくのは、本当に面白かった」とキラキラと目を輝かせた。



か、皆とワイワイするのも楽しみ。会社の愚痴を言い合ったりと本当にいい環境で仕事ができている」というナンビアさんだが、将来は「どこかの海外拠点に赴任して、人的リソースや時間、コストといったマネジメントをする仕事につきたい」といった夢があるのだという。「そして、いつかはインドでのシギヤのマネジメントをやりたいです。そうすればこの会社のすごさを、もっと世界に広めることができますから」。

総務部 総務課 井上 貴弘氏

ナンビア氏



## 企業メッセージ

海外拠点を持つ弊社のような企業の場合、平素のやりとりの中で言葉の壁を感じることは多いのではないのでしょうか。海外のクライアントの要望を齟齬なく正確に理解し、とりこぼすことなく対応できるコミュニケーション力というのは、海外におけるブランド確立の第一歩です。技術力も製品についての確かな理解も、そして現地のマーケットの知識ももちあわせる社員が、社内で活躍してくれるというのは、今後の企業成長にとって非常に大きな戦力になると思います。

海外拠点の未来を担う、若き2人のインドネシア人。働きやすさが、高度外国人材の2人の才能を飛躍させる。



工業用品事業本部グローバル開発・設計・技術グループ  
**プトリディア・ルピタサリ** (24才)  
PUTRIDIAH LUPITASARI

●インドネシア出身 ●スラバヤ工科大学出身  
●入社1年目 ●担当業務:ゴムの配合・形状設計

工業用品事業本部グローバル開発・設計・技術グループ  
**ステファノ・クリストフォルス・セバステアン** (26才)  
STEFANO KRISTOFORUS SEBASTIAN

●インドネシア出身 ●バンドン工科大学出身  
●入社3年目 ●担当業務:自動車シール部分の設計

### まずは顧客中心のものづくりの体得から。成長めざましい頼りになる存在。

自動車で利用されるゴム製品を主軸に、工業用ゴム製品、シューズ、合成樹脂製品の製造・販売を行う広島化成株式会社。2016年に同社はインドネシアに子会社を設立、様々な事業が進む中で、インドネシア人の高度外国人材として大きな期待のもと採用されたのが、入社3年目のステファノ・クリストフォルス・セバステアンさんだ。「インドネシアの人は、どこか日本人に似ています。働き者で、生真面目。日常の業務だけでなく、実習生への通訳が必要な時でも、快くサポートしてくれる。頼りになる存在です」と、工業用品事業本部取締役本部長の田丸知宏氏。現在自動車シールの設計を担当するセバステアンさんだが、入社当初から、クライアントとの打ち合わせに参加しているのだという。「お客様の顔を見て話を聞き、自分の目で見ることからこそ気がつくことがある。それがその後の仕事に生きてくるし、本人のモチベーションにもなります」と、田丸氏。今後のインドネシアでの事業展開に必要な人材だからこそ、「クライアントの要望と当社の技術の『すりあわせ』を徹底的に行うことが素晴らしいプロダクトを生む」という同社の顧客中心のものづくりの姿勢を、技術者としてしっかりと体得してもらったのだという。

入社の動機を聞かれたセバステアンさんが「会社訪問に行ったら、皆がフレンドリーだったから」と即答するほど、社員同士のコミュニケーションを大切に、上司部下の間でも風通しの良い風土を持つ同社。気負うことなく質問できる環境が、現在は2人に増えた高度外国人材の働きやすさに直結している。「元々理解度が高いので、今では弊社のものづくりの姿勢を、アウトプットとしてプロダクトに落とし込むことができるほど成長してくれました。今後はインドネシアでの新規事業やマネジメントでも、日本人社員と協力し合い、今以上に力を発揮してくれると楽しみにしています」。

### 熱中在工作にした、ふたりのインドネシア人高度外国人材。次の夢はイノベーション。

#### ●「日本人にとっての仕事は、人生そのもの」。日本で働くことで醸成された、仕事への責任感と情熱。

「セバステアンさんは、休みの日もずっと家でCGを作ってるんだよね」と田丸氏から声をかけられるほど、デザインとプログラミングに熱中しているセバステアンさん。「エンジニアリングの国、日本」で新しい技術を学ぼうと留学したのが広島大学大学院だった。大学院ではディープラーニングを主に研究したが、専門は機械システム。製品のスタート地点から立ち会い、製造までつなげていくという作業は「おもしろい」の一言だという。「お客様の希望も技術のこともしっかり理解していないとできないのが、設計の仕事です。デザインはしたけれど製造はできないでは、意味がないですから」と、「すりあわせ」を常に意識しながら設計を行う。最近では新プロジェクトの設計担当にも任命され、生き生きとその実力を発揮中だ。

「相談すればすぐに一緒に解決してくれるので、苦労は無いです。働きやすい」と語るセバステアンさんだが「皆が楽しそうに働いている」と形容したその一方で、「『ワーク・ライフ・バランス』という言い方をすれば、日本では『人生と仕事』が混ざりあっている」と鋭い観察も。「日本人にとって仕事は人生そのもの。だからこそ、そこに大きな責任感が生まれ

る。」とセバステアンさん。顧客とのコミュニケーションをとりつつ、技術職として業務をこなしながら、社員のマネジメントまでも行う上司の姿には、とりわけ尊敬の念を抱いているという。

同じインドネシア出身の後輩もできた。入社一年目のプトリディア・ルピタサリさんの専門は、化学工学。天然ゴムが主要産業のひとつであるインドネシアの人にとって、ゴムは身近な素材。「そのゴムの配合をいろいろ試すことができるなんて、化学者として最高の仕事だと思いました」と入社理由を語ったほど。現在は日々ゴムの配合に熱中しているのだという。「でも、どうしても朝のラジオ体操が覚えられなくて・・・」と恥ずかしそうに付け加えたルピタサリさん。先輩・セバステアンさんからの「ぼくもそうだった!でも、覚えるよ!」という即座のフォローに安心した笑顔を見せた。



#### ●才能ある高度外国人材が語るイノベーションへの熱い思い。

セバステアンさんの今後の夢は、顧客の要望と製造をつなぐ設計という役割からさらに一歩進めた「カイゼン」を行うことだという。「プロトタイプングでの試行錯誤を減らし、より開発コストの削減を進めたい。また、3Dプリンターも導入されたので、今までは製造できなかったようなデザインのものも、設計してみたい」と、セバステアンさん。「今までに無い、新しいゴムの配合を考えたい」とルピタサリさん。グローバルな未来を担うふたりのインドネシア人「財」は、技術者として広島でさらに飛躍を続ける。



管理本部 総務部 大原 慎次氏  
ルピタサリ氏  
セバステアン氏  
工業用品事業本部 取締役本部長 田丸 知宏氏

#### 企業メッセージ

少子高齢化が進み、自社の希望に見合う人材を国内だけでは見つけられないのが今の日本の現状です。弊社では、活躍をしていただけるなら雇用を多様化すべきだと考え、高度外国人材を採用するようになりました。働きやすい環境を整え、しっかりと根づいてもらうことで、海外拠点での頼もしい存在として、日本人社員に刺激を与え、社の未来を担う存在として活躍してくれると思います。

「こんなに能力が高いのか」、採用前の不安が一転。世界を知る発想力と理解力でチームに欠かせない一員に。



工機技術部 設計5課

ゴビンダラージュ・ゴータム (26才)  
Govindaraj Gowtham

- インド出身 ●アンナ大学出身 ●入社4年目
- 担当業務: 工作機械製造における仕様調整、設計

### 真のグローバル企業としての、高度外国人材採用。

自動車エンジンの加工を行う機械など、高精度な工作機械の製造を中心に  
行うホーコス株式会社。日本の全自動車メーカーのみならずアメリカやヨー  
ロッパ、韓国などの各メーカーを顧客に持ち、海外からの来客も多い。縮小傾  
向にある日本の市場より海外展開に力を注ぐという会社の方向性もあり、「グ  
ローバル」は常に意識してきた言葉だ。一方で、広島県ものづくりグローバル人  
財育成協議会の制度を紹介されるまでは、高度外国人材を採用したことは無  
かったのだという。

「率直に言って『こんなに能力が高いのか』と驚いた、の一言です」と、人事部  
次長石黒宏哉氏は、同社初めての高度外国人材となったゴビンダラージュ・  
ゴータムさんについて表現する。同社が製造する工作機械は、顧客のニーズを  
反映したオンリーワンの製品。企画段階から設計、組み立てに至るまで顧客と  
の綿密なやり取りが必須であり「お客様と一体となって製品をつくりあげてい  
くというマインド」での仕様調整が必要になる。工作機械の構造を熟知し、顧客  
の要望を確実に理解して詳細に至るまで意見を交わし、それを設計や製造に  
落とし込んでいく。この同社の要となる業務を、語学力から海外市場動向の理  
解に至るまで、いくつものプラスαと共に行うことができる人材、それがゴータ  
ムさんだった。

2020年度には、さらにインド、台湾、タイ出身の3人の高度外国人材を採用  
した。「外国人の社員も日本人の社員と同様に扱う、というのが基本方針です  
が、業務に関しては違います。高度外国人材には、世界を知るからこそその発想  
力と理解力がある。その個性を活かすには、基礎教育に時間をかけるよりもで  
きるだけ実践に近い部分で早くから活躍してもらいたいし、彼らの働きがいも  
そこにある。技術力はその中で磨きをかけていければ」。

## 工作機械への熱い思いとグローバルな視点・ 発想力で、チームの即戦力に。

●「なんて面白そうなんだろう!」色褪せない思いとともに、  
大好きな工作機械に囲まれる日々。

インドでは、機械工学を専門に工作機械について研  
究していたゴータムさん。大学院での海外留学を考  
えていた時に、広島大学大学院への奨学金制度につ  
いて知った。「日本といえば自動車、そして大学で学  
んだ『5S』の国。日本のものづくりを、現地で学びたい  
と思いました」。

広島大学大学院では、研磨機の研究に没頭。「とに  
かく工作機械が大好きで・・・」と照れながら笑顔を見  
せるゴータムさんがホーコス株式会社に就職するこ  
とになったのは運命とも言えるが「インターンに来た  
時に設計を見学させてもらったら、2次元ではなく3  
次元のCADで設計を行って『なんて面白そうなん  
だろう!ここで働きたい!』と思いました」。当時は3次  
元CADでの設計が、まだ広くは普及していない時期。  
それがすでに導入されていたことに先進性と「これか  
ら成長していく会社だ」という確信を感じ、就職を決  
めた。初めての外国人社員ということもあり当初は緊  
張していたものの、外国のお客様も多いこともあり社  
内の雰囲気はグローバルで、すぐに打ち解けることが  
できたという。

一方、設計ソフトの言語が全て日本語だったり  
ハード面のグローバルはこれからの状態だったため、

●夢は、部品から自分で設計した究極の工作機械をつくること。

「これからも、インドだけではなくて、色々な国の  
人とも仕事をしていきたいです。そのためにも、日本の  
技術をしっかりと学んでおきたい」とうなずくゴータ  
ムさんだが、一番の夢をたずねると「もっとスキルア  
ップして、世の中にまだ存在しない、部品から自分で設  
計して、作って、組み立てる究極のオンリーワンの工  
作機械をつくること」だという。大好きな工作機械に  
囲まれて、ゴータムさんの勉強と挑戦は続く。



日本語に関しては苦勞も。しかし、設計担当や組み立  
て担当などとチームで仕事を行う体制は言語面にお  
いてもサポートが受けやすく、「アイデアを出し合う機  
会もあるし、良い意見を言えば採用してもらえる」フ  
ラットさがあり、苦勞以上のやりがいを感じて仕事に  
のぞむことができた。

現在は技術チームの一員として、3DCADなどのソ  
フトで工作機械の設計を行ったり、高い語学力と工作  
機械に関する専門知識を駆使して国内外の顧客との  
仕様調整を行うなど、会社になくはならない存在と  
して活躍する。「人とのコミュニケーションが元々好き  
な性格なので、そこで英語も活かすことができ、楽し  
く仕事できています。何より毎日、大好きな工作機  
械を通じて日本のものづくりを学ぶことができます。  
満足しています」。



人事部次長 石黒 宏哉氏

ゴータム氏

### 企業メッセージ

広島県ものづくりグローバル人財育成協議会の制度を紹介された当時の弊社は、高度外国人材  
の採用が社の未来に不可欠だとわかっていながらきっかけが掴めない状況でした。制度を知ったこ  
とを契機に「まず一歩踏み出してみよう」とゴータムさんを採用し、そこからの現在です。不安要素  
はたくさんあるかとは思いますが、まずは行動に移すことが大切です。この制度は、どうにか足を踏  
み出したその時に、安心感とともに手を引いてくれる存在だったと思っています。

# 高度外国人材は企業の突破力、最新技術CASE開発を担うメキシコ人。



情報制御モデル開発部

ベガ・ラミレス・アントニオ (27才)  
Vega Ramirez Antonio

- メキシコ出身
- グアナフアト大学出身
- 入社2年目
- 担当業務：統合制御システムの開発

## 日本語能力よりも将来性。 ダイバーシティが企業の未来を切り拓く。

日本のものづくりを、世界に誇るオンリーワンテクノロジーで「車」へと体現し続ける企業、マツダ株式会社。多くの海外拠点を持つ言わずと知れたグローバル企業として、外国人材の採用も積極的に行う。例年10名前後の外国人留学生を採用する中で、社内でのダイバーシティも浸透。すでに「外国人」という言葉の枠を超え「仲間」として働く環境が醸成されている。「外国人留学生は『挑戦』の心意気が強く、元々マツダの社風にマッチしているんです。軸を持って臆することなく意見できる外国人材には、固まっている雰囲気や壁を打破する突破力もある。自分の知識を伝えながら新しいものを生み出していく研究開発や生産技術、製造の領域では、とりわけ活躍が期待されています」と人事本部人材開発部採用グループ 黒西潔氏。その将来性を見込み、語学力については入社後の伸び代を勘案。採用面接で日本語コミュニケーションに多少の不安があっても、技術力の高さが確認できる優秀な人材であることが認められれば、採用することにしているという。

就業人口の大幅な減少が深刻さを増す日本において「事業継続のためには、外国人材の戦力化が必要だ」と黒西氏。入社時のモチベーションを高めそれぞれの能力や知識を最大限に活かすことができるよう、配属は入社時の希望調査にできるだけ沿った形で行う。また、入社後3年間は、メンターの役割を果たすペアコーチを設定。仕事から日常まで交流をベースに気軽に相談できる体制を整えるなど、きめ細かなフォローを行っている。「ダイバーシティを受け入れるというのは、企業がこれから前へ進む上で必ず通らなくてはならない道。全ての社員とともに、今はそこに行くまでの長い助走路と一緒に走っているのだと思っています」。

## 海を渡り子供の頃から親しんだ会社へ。 マツダの最新技術CASE開発を担うイノベーション力。

### ●出合いが出合いを呼び、毎日新しいことが勉強できる 希望の部署で仕事に熱中。

ベガ・ラミレス・アントニオさんは、マツダのメキシコ工場がある、メキシコ・グアナフアト州サラマンカ市出身。「工場は父の家からほんの10分くらい。子供の時から『zoom-zoom』のCMをテレビで見たいし、大学ではマツダの歴史について習ったこともあります」と言うほど、メキシコにいた時からマツダは身近な存在だった。そのマツダがある広島に来るきっかけとなったのは、アシスタント・ティーチャーとして働いていたグアナフアト大学に、広島大学の高品徹大学院工学研究科特任教授が来訪したことだった。アントニオさんの大学時代の専門は、電気・電子工学。高品教授から、広島大学大学院への進学が日本企業への就職へのチャンスとなると聞き、新しい活躍の転地を求めて留学を決意。入学後、広島メキシコ合衆国名誉領事館名誉領事でマツダ株式会社相談役の金井誠太氏と話す機会があったことや、YouTubeで見つけた代表取締役副社長の藤原清志氏の「Defy Convention」(常識を打ち破る意志)という言葉に感銘を受けたこ

とから、マツダへの思いをさらに強めたのだと言う。

現在アントニオさんが手掛けているのは、マツダが力を入れるCASE技術<sup>(\*)</sup>

の、C(コネクテッド)の部分の開発だ。MAZDA3やCX30では、コネクティビティ技術で車体がスマホアプリと連携、車のコンディションに関する情報やナビなど、さまざまな機能を利用することができる。アントニオさんは専門の電子工学の知識をフルに活かし、3年間の新任研修(骨太研修)で、配属された統合制御システム開発本部で、車体の電子基板を設計。大学院時代から興味があった魂動デザインの知識を活かすことができる場面もあり、「希望の部署に入ることができて、本当に嬉しかった。毎日新しいことが勉強できるこの仕事が大好きです」と笑顔を見せる。



### ●マツダの開発プロセスを、完璧に自分のものへ。歩みをやめない向上心。

何気ない日常の中で見つけた日本らしさからも学びがあるとアントニオさん。「大学院生の時にした引越越し屋さんのバイトで、そのバイト先の社長から『お客様の荷物は、ゆっくりと丁寧に』と教わりました。車も同じです。お客様が乗ってくださるのだから、部品ひとつひとつでも、丁寧に扱わなくてははいけません」と、クルマづくりへの思いは真剣だ。一方で、日本で働くうちにすっかり仕事に熱中するようになった自分は「メキシコ人から見たら、変な人だと思われるかも」とジョークを飛ばしたりと、陽気な性格で言葉の壁も感じさせないほど周囲に溶け込んでいる。

現在開発する技術の中には、アントニオさん自らが提案し採用された部分もあるのだという。「自分の考

えたシステムが採用された時が今までで一番嬉しかった。これからも先輩や上司に相談しながら、同期の皆さんともしっかりディスカッションし、マツダの開発プロセスを完璧に学んで、自分のものにしたい。そしていつか、大好きなロードスターに自分の手でコネクティビティ技術を導入したいです」。



(右) 人材開発部採用グループ サブ 黒西 潔氏

(中) アントニオ氏

(左) 人材開発部採用グループ 担当 小栗栖 康正氏

#### 企業メッセージ

就業人口が減少していく日本において、外国人材の受け入れによる職場のグローバル化は着実に進み、数十年後には、日本人、外国人と区別すらなくなっているでしょう。多様性は欠点ではなく、長所です。今、日本企業で働く元留学生の方々には、多様性社会の先駆者として、明るく元気に、粘り強く、日本のモノづくりを支えていってくださることを期待しています。





# 日本のものづくり哲学は、携わるひとりひとりの日常と内側からにじみ出るもの。

## ■企業訪問やインターンシップはどうでしたか？

**[グエン]**：すごく良くしてもらいました。橋梁や道路など、いろいろな現場に連れて行ってもらって、そのたびに詳しく説明もしてもらいました。食事にも連れて行ってくれたり、仕事面でもプライベートでも本当にいい勉強になったし、楽しかった！

**[ビジャヤバラ]**：日本の会社ではどうやって仕事をしているのか、実際に目で見る事ができました。設計の様子や、現場を見ることができたのも良かったのですが、一番勉強になったのはやっぱり、日本の製造業で人々が働く姿勢です。「安全第一！指差して行こう！」とか「朝のラジオ体操」とか…。

**[ヘルナンデス]** **[グエン]**：そうそう！ラジオ体操！驚いたよね！（一斉にラジオ体操や指差し点検のマネ）

**[ビジャヤバラ]**：ラジオ体操も指差し点検も、日本の会社では「心を揃える」ことを大切にしているからだと学びました。朝会で、その日の目標や計画を必ず共有するでしょう？口に出すことで目的を明確にして、それから心を揃えて「さあ、働こう！」ってそれぞれが仕事にとりかかる。

**[ヘルナンデス]**：誰かに監視されているわけでもないのに、きちんと皆がルールを守って作業を行う。その結果、効率が良いくなる。

**[ビジャヤバラ]**：日本製品の高いクオリティは、そういう日常の中から作り出されるんだと思う。誰かに命令されるからではなくて、造る人ひとりひとりの内側からにじみ出てくるもの。日本製品の素晴らしさは子供の時から知っていますが、ものづくりの現場を見たことで、その理由がわかった気がします。

**[ヘルナンデス]**：ぼくは、製造でのレポートの細かさに驚きました。日報、週報、月報と順を追って進捗を提出する。つまり、何か問題があっても過去に遡って原因を究明できるという

うこと。さらにその記録があれば、予測もできる。日本のものづくりは、品質、サービスともに素晴らしいことで有名ですが、それを支えているのは背後のこういう細やかな手順なんだなと納得しました。

**[ビジャヤバラ]**：細やかな手順を皆がきちんと意識して守り、それが蓄積されていくことで、より素晴らしい製品へと結実する。日本のものづくりの哲学って、そこにあるのかなって。

**[ヘルナンデス]**：ぼくも同じ意見。日本製品がああクオリティを出せるのは、ひとりひとりのものづくりへのスタンダード（基準・尺度）がしっかりしているから。そこが、日本のものづくり哲学なんだと思う。

**[ビジャヤバラ]**：一定のルールや原理に従っているんだけど、誰かにやらされているんじゃないって、日常に溶け込んでいるんだよね。元々溶け込んでいたのか、または溶け込むように工夫されているのかもしれない。

**[ヘルナンデス]**：日本のものづくりのフィロソフィー＝日本文化のフィロソフィーなのかも。

**[ビジャヤバラ]**：とにかく「あ、ボスが来た！やばい！」とか、そういう感じじゃ、ないもんね！（笑）



（※取材は、英語及び日本語で実施されました。）

## 広島企業の世界進出を支えたい！！

### ■広島企業に就職した後の、夢を教えてください。

**[タボン]**：日本のものづくりを学びながら、スキルを磨いていきたいです。システムに技術…いろいろなことを吸収して、仕事に活かしていきたいと思えます。それから、休日には日本全国を旅行して全都道府県を制覇したい！（笑）

**[ヘルナンデス]**：ぼくは、長く働いて、それから海外支社の立ち上げとかに関わってみたいです。言葉の面でもサポートできるし、新しい国へどんどん出て行って欲しい。

**[ビジャヤバラ]**：ぼくたちも手伝うから、広島企業にも世界へ挑戦して欲しいです。アメリカのマーケットにも、進出し

て欲しいな。  
**[グエン]**：日本語をもっと上手になって、「企業人」としてしっかり働きたいですね。将来は博士号も取りたいです。あ、でもそうしたら仕事をやめなくてはいけない…。

**[高品]**：働きながら博士号を取ることができる制度もありますよ。会社でデータを収集して、それをもとに論文を書いたり、学費をサポートしてくれるシステムがある会社もある。

**[グエン]**：そんな制度があるんですか！グッドニュースです（笑）

### Hernández Navarro Luis Enrique

**ヘルナンデス・ルイス** (31才)  
■出身国:メキシコ  
■出身校:グアナファト大学  
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻  
■研究内容:炭素繊維強化プラスチックの衝撃特性について  
■趣味は県内あちこちを友達と旅すること。

### Vijayabalan Harishraja

**ビジャヤ balan・ハリシュラジャ** (23才)  
■出身国:インド  
■出身校:アンナ大学  
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻  
■研究内容:熱伝導銅グラファイト複合材の開発  
■日本のアニメが大好き。「ONE PIECE」の大ファン。

### Nguyen Van Son

**グエン・バン・ソン** (24才)  
■出身国:ベトナム  
■出身校:交通技術大学  
■現在の学部:大学院 工学研究科 社会基盤環境工学専攻  
■研究内容:早強ボルトランドセメントを使ったセメント改良土の開発  
■インターンシップで親切にしてもらったことに、感動。

### Thavorn Rittanupap

**タボン・リタヌパップ** (23才)  
■出身国:タイ  
■出身校:チュラロンコン大学  
■現在の学部:大学院 工学研究科 機械システム工学専攻  
■研究内容:熱伝導銅グラファイト複合材の開発  
■日本のアニメが大好き。「ドラえもん」の大ファン。

# 広島県ものづくりグローバル人材育成協議会 NEW POWER 「座談会」

## 『ドラえもん』を現実にする国で見た、規律と集中力。

### ■日本での留学生活はどうですか？

**[ヘルナンデス]**：日本の製造業で働いてみたくて留学を決めました。大学院で勉強しているだけでもメキシコとは全然違って驚きました。仕事や勉強にはさっと集中して、休憩時間を引きずらない。スケジュールがきちんと区切られていて、皆がそれを尊重して従っている。初めはちょっと驚きましたね。

**[ビジャヤバラ]**：その通り！ぼくの国でも、何かに取り組む時間になってもペラペラおしゃべりしている人は多いよ（笑）。日本ではそれがありません。すごく時間に厳格で、ぼくも最初は驚きました。

**[グエン]**：大学院に入ったばかりの時、Wi-Fiのことを聞きたいのに研究室の皆が無言であまりにも集中してて、声がかげられなかったことも（笑）。でも、それに気がついた先輩たちが何でも教えてくれました。課題を解決する必要があるときは徹底的に議論したり、メリハリがきいていますね。

**[ビジャヤバラ]**：研究が窮地に陥れば陥るほどすごくコミュニケーションをとるから、そこで絆が芽ばえるよね。「毎日進歩することが大切」って先生から言われた言葉も、心に残っています。

**[タボン]**：ぼくにとって日本は、大好きな漫画『ドラえもん』を現実にするすごい国。エンジニアリングを勉強するのに

最適な国のひとつで学んでいるのは本当に幸運だと思っています。日本での研究では、実験の計画や結果に関する「報告」が厳密で、これが日本の技術力に還元されているんだなと感じました。量が多いので、夜までかかってしまうけれど…（笑）。

**[ヘルナンデス]**：時間厳守にせよ報告にせよ、日本で生まれ育ったら、それがルールとして自然に身につくんだと思います。小さな子がみんな黄色い帽子をかぶって整列して学校に行く国なもの！（笑）暗黙の了解がわからなくて戸惑う時もあったけれど、今では随分わかるようになりました。

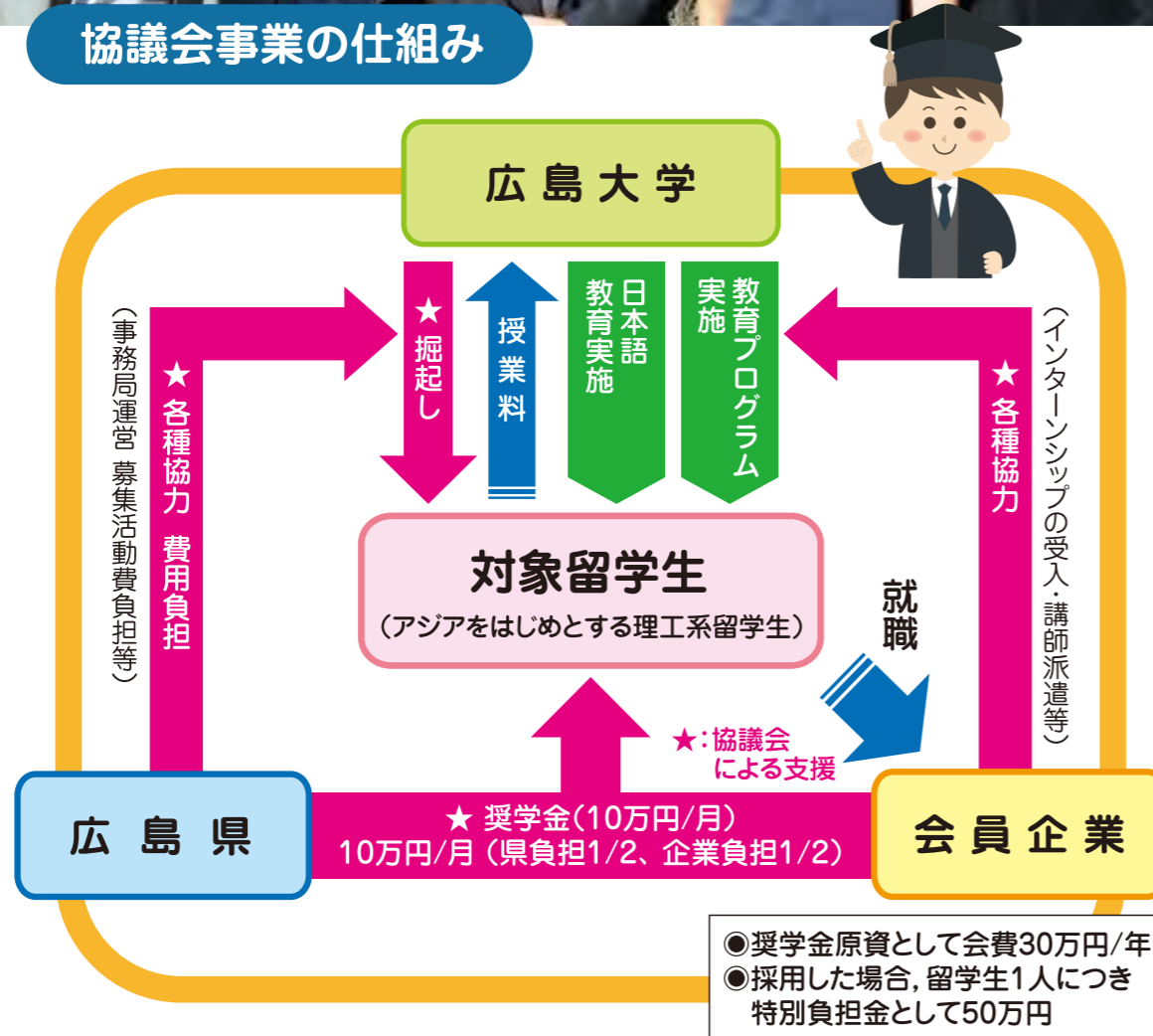
**[グエン]**：日本では、基礎研究に重点を置くのも大きな違いですね。技術大国の日本で、まずは基礎研究から、というのは予想外でした。



# 広島県ものづくりグローバル人財育成協議会について



## 協議会事業の仕組み



## 高度外国人材の多様性が、広島県産業の未来を築く。

広島県ものづくりグローバル人財育成協議会において、アジアをはじめとする各国から優秀な理工系留学生を掘起し、育成、県内企業への就職をサポートする役割を担うのが、広島大学です。特に工学系に強みのある本学の協定校へ、各校の卒業生であることを出願資格として留学生を募集、年に数カ国は協定校を直接訪問し説明会も開催しています。選抜は書類とオンライン面接で行いますが、わざわざ異国の地で勉強をしようという方たちですから、貪欲に知識を吸収したいというバイタリティのある若者ばかりです。日本で勉強したい・働きたいというベースには、日本のカルチャーや技術力への関心など日本そのものへの強い興味もあります。この、日本が好きで、能力も志も高い世界各国の優秀な若者たちが、広島大学大学院で学び、その後県内の企業へと採用されていくこととなります。

広島大学では、専門の教員による日本語集中講座や日本型ものづくりの基礎、製造業でのインターンシップなど、日本での生活に慣れつつ日本で働くための基本を身に着けます。また同時に通常の学生と同じ授業を受け、彼らと同じ研究室で切磋琢磨し、さらに修士論文も書き上げるというハードな留学生活を送ります。しかし、これまで50名近くが修了し、中途退学者はひとりとしていません。母国語・英語・働きながら磨きかける日本語と、彼らは3ヶ国語をあやつるグローバル人材であり、将来に渡って広島の企業で活躍することができる優秀な技術者です。採用難という課題を抱える地方の企業にとって、彼らがいかに企業の未来を担う人「財」であるか、わかっていただけるのではないかと思います。



広島大学 大学院  
先進理工系科学研究科  
特任教授  
高品 徹

企業によっては、高度外国人材の採用は全く新しい地平かもしれません。しかし「優秀な技術者であれば、国籍は関係ない」とこれまで中小をはじめとする多くの企業が高度外国人材を採用しています。また、留学生たちは、企業訪問やインターンシップで日本のものづくりを実際に目にし、感銘を受け、それぞれの企業へ強い想いを抱いて入社しているので、もしも制度の利用を検討されておられたら、ぜひ留学生の会社訪問の受け入れからスタートしていただければと思います。

これまで高度外国人材を採用した数々の企業は、彼らの技術者としての高い能力だけでなく、積極性やバイタリティ、発想力に驚かされたとおっしゃいます。彼らには、日本人とは違う視点や文化を持つからこそ力を発揮できるフィールドがあり、ダイバーシティを受け入れる環境を整えていただくことで彼らの実力は何倍にも輝き、企業にとってさらに頼もしい戦力として成長していきます。彼らの多様性が、企業のイノベティブな未来を築き、これからの広島県の産業を牽引する新しい扉となると信じています。

## プログラムスケジュール

1年目に日本語の基礎学力向上とものづくりについて学びながら、会員企業様の会社にて企業訪問・インターンシップを行い、2年目は修士論文研究を行いながら就職活動を行います。

		1年目										2年目														
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
広島大学	入学	ビジネス日本語入門										ビジネス日本語応用														
		ものづくり 日本語入門					企業研究					ものづくり 日本語応用					インターンシップ									
会員企業様		会員企業にて実施										会員企業にて実施														
		外国人材とのマッチング										外国人材とのマッチング														
		修士論文研究										就職活動 進路決定														
		修了										修了														

## 産学官の役割分担

### 留学生獲得

- インド・ベトナム・インドネシア・タイ・中国・メキシコ等から優秀な人材を獲得
- 募集、入試：広島大学+広島県

### 専門プログラム

- インターンシップ事業：企業+広島大学
- 共同修士研究：企業+広島大学
- 教育プログラム
  - リーダー：専門プログラム開発マネージャー
  - ものづくり科目開発：広島大学+企業

### 留学生支援

- 奨学金制度：企業+広島県(学生一人に10万円/月)
- 宿舍提供等生活支援：広島大学

### 日本語教育

- 導入日本語：広島大学
- ビジネス日本語：広島大学

### 就職支援

- インターンシップ、修士研究と連携：広島大学+企業
- 学生のコンソーシアム参加企業への就職支援